

科目名	授業形態	単位数	担当教員名
障害児保育Ⅱ	演習	1	林 幹士・加藤 義弘
【授業のテーマ及び到達目標】			
<p>障がい児保育Ⅰで学んだ障がいの特性を基礎とし、さらに実践的なスキルを発展させていく。事例を検討し、保育の場ではどのようなことが起こっているのか、どのように保育実践するのかを考える。</p> <p>障がい児保育の実際として、障がい特性を生かし、個々に注目した保育の進め方、また、仲間と共に育つ保育の進め方の実際を修得する。</p>			
【授業の概要】			
<p>障がい児保育について、テキストの内容を中心に実践的な理解を深めていく。必要に応じて、参考資料の配布、新聞からの情報提供、映像などの視聴を行う。研究論文の実践事例を題材にグループワークを行う。この授業を通して、障がい特性に応じた障がい児保育実践の具体的な方法について学ぶ。</p>			
【全体の授業計画・内容】			
1. 基本的な生活習慣獲得の援助			
2. 集団生活とあそびの援助			
3. 保護者や家族への支援			
4. 小学校・特別支援学校との連携			
5. 障がいのある子どもの保健・医療・福祉施策			
6. 地域の社会資源との連携・障がいのある子どもの支援における地域連携			
7. ADHD の子どもの事例			
8. 自閉症スペクトラム症の子どもの事例			
9. 実践事例(障がいのある子どもの仲間関係)			
10. 実践事例(アスペルガー症候群)			
11. 実践事例(自閉症)			
12. 実践事例(言語障がい)			
13. 実践事例(知的障がい)			
14. 実践事例(肢体不自由)			
15. 試験およびまとめ			
【準備学習の内容】			
予習のあり方: テキストを自分なりに読んでおくこと。			
学習のあり方: 指定された課題を完成すること。			
復習のあり方: 授業で得た知識で終わらせず、実践的な力となるように意識していくこと。			
【成績評価】			
平常試験 (80%)、提出物 (20%) により総合的に評価する。			
【課題(試験・レポート等)に対するフィードバックの方法】			
授業において振り返りシートを記入する。このシートに質問が記入されていれば、つぎの授業でコメントを返す。			
【テキスト】			
野田敦史・林恵 『学ぶ・わかる・みえる演習・保育と障害のある子ども』 みらい			
【参考文献】			
適宜お知らせする。			